

企画委員会 業務報告

2019年5月16日
戦略企画部 企画委員会

© JAHIS 2019

1. 企画委員会の業務
2. これまでの主な活動成果
3. 2018年度活動
4. 今後の取り組み

保健医療福祉情報システム市場のさらなる健全化に向けた諸活動を各部会の協力のもと、関係省庁・団体と連携して実施する。

今年度は「2025ビジョン」の普及促進と併行して、「2025ビジョン」を将来の社会課題や最新の政府戦略、ICTトレンドを踏まえた「2030ビジョン」として改版し、今後取り組むべき課題の明確化や対応策の提言検討などを行う。

※2019年度事業計画より

委員長 : 国分 令典 (日立製作所)

副委員長 : 石山 敏昭 (日本電気)

委員 : 新里 雅則 (シーエスアイ)、森本 正幸 (富士通)

小林 俊夫 (日本IBM)、西村 剛敏 (PHC)

戦略企画部長 : 中光 敬 (NTTデータ)

戦略運営幹事 : 柴 健一郎 (NTTデータ)

部門代表 : 石井 雅弘 (医事コン : NTTデータ)、真野 誠 (事業推進 : 日本電気)

西山 喜重 (標準化 : キヤノンメディカルシステムズ)

執行 直亮 (医療シス : 日立製作所)

藤岡 宏一郎 (保健福祉 : 日立製作所) 松原 修 (保健福祉 : 日立製作所)

田中 利夫 (総務会 : キヤノンメディカルシステムズ)

事務局 : 平井 健二

- J A H I S 21世紀ビジョン 第2版* 2000年6月
- 個人情報保護ガイドライン説明会開催 2005年2月
- 医療情報システム安全パンフレット 2007年3月
- J A H I S「2020年ビジョン」 2010年1月
- 「お客様と共有したい課題とその考え方」 2012年5月
- 「病院情報システムにまつわるインシデントの分析とその対策」
. 2013年7月
- 「誤解を生みやすい用語の解説」 2014年7月
- J A H I S「2025ビジョン」 2015年1月
- 「2025ビジョンの進捗状況や今後の取組み（案）」
. 2018年6月

* 「企画調査委員会」として作成

1. 「2025ビジョン」の普及推進

「2025ビジョン」の普及推進状況と課題を整理するため、長年運用実績のある地域医療連携システムの状況を調査

視察先：まめネット(島根)、あじさいネット(長崎)、晴れやかネット(岡山)、
天かけるネット(広島)

具体的取り組みや現状の課題を「2025ビジョンの進捗状況や今後の取組み（案）」として整理し2025ビジョン実現に向けたアクションプランとした。

2. 教育事業の対応

医療情報システム入門コース向けテキスト・用語集見直し、および講師対応を実施。

担当：「Ⅰ.医療をめぐる動向ガイダンス」
「Ⅱ.医療機関における医療情報システム」

単元Ⅰは、ホスピタルショウのセミナーに活用。

3. 「2030ビジョン」作成

将来の社会課題や最新の政府戦略、ICTトレンドを踏まえた「2030ビジョン」の基本構想を検討。2020年1月発行予定。

1. 「2025ビジョン」の普及推進

「2025ビジョン」の普及推進状況と課題を整理するため、長年運用実績のある地域医療連携システムの状況を調査

視察先：まめネット(島根)、あじさいネット(長崎)、晴れやかネット(岡山)、
天かけるネット(広島)

具体的取り組みや現状の課題を「2025ビジョンの進捗状況や今後の取組み(案)」として整理し2025ビジョン実現に向けたアクションプランとした。

2. 教育事業の対応

医療情報システム入門コース向けテキスト・用語集見直し、および講師対応を実施。

担当：「Ⅰ.医療をめぐる動向ガイダンス」
「Ⅱ.医療機関における医療情報システム」

単元Ⅰは、ホスピタルショウのセミナーに活用。

3. 「2030ビジョン」作成

「2025ビジョン」を将来の社会課題や最新の政府戦略、ICTトレンドを踏まえた「2030ビジョン」への改版を検討中。2019年1月発行予定。



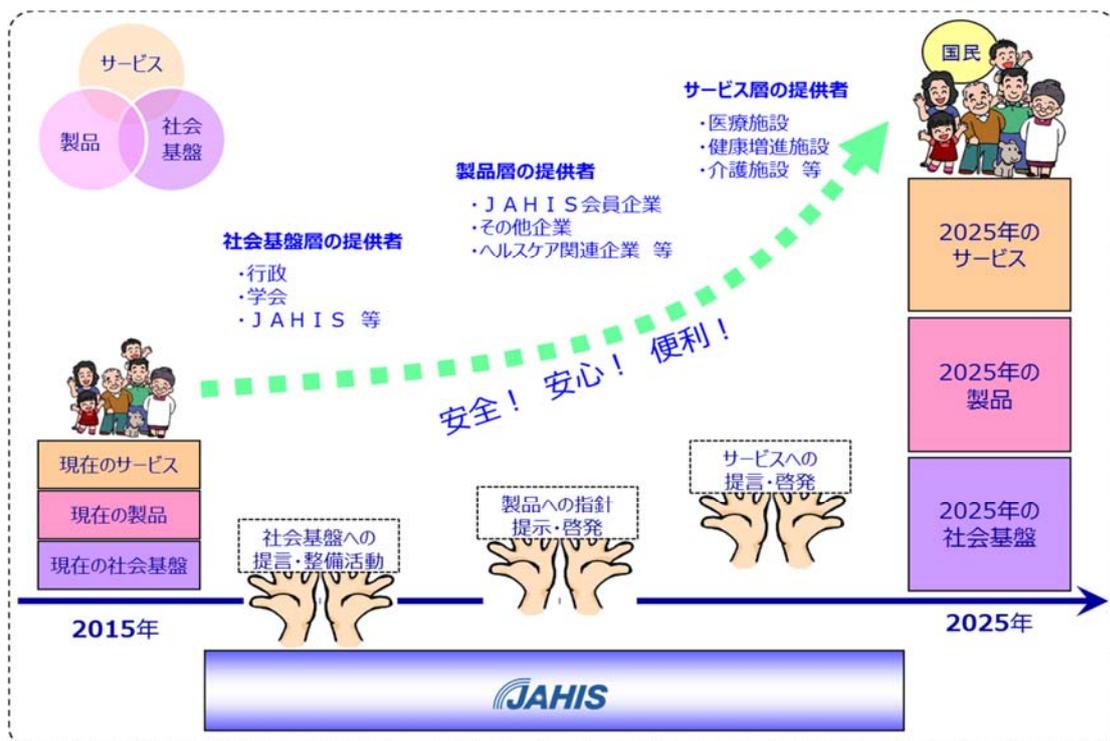
目次	
はじめに	1
I. JAHIS(本会)の目的と理念	2
II. ヘルスケアをめぐる社会動向	3
1. ヘルスケアをめぐる社会環境	3
2. 2025年に向けたヘルスケアのあるべき姿	5
III. ヘルスケアITを構成する3つの階層	7
IV. 2025年のヘルスケアITビジョン	8
1. サービス層のビジョン	8
1) サービス層のビジョンの概要	8
2) サービス層のビジョン実現のための要件	11
2. 製品層のビジョン	12
1) ビジョンの考察対象とする主な製品群	12
2) 製品発展の方向性	13
3. 社会基盤層のビジョン	16
1) 制度の基盤	16
2) 技術の基盤	17
3) 資金の基盤	19
4) 人材育成の基盤	20
おわりに	21

- 2025ビジョンは、日本の社会保障制度において節目の年である2025年に向けて、ヘルスケアITに関して目指すべき方向性を示したものである。

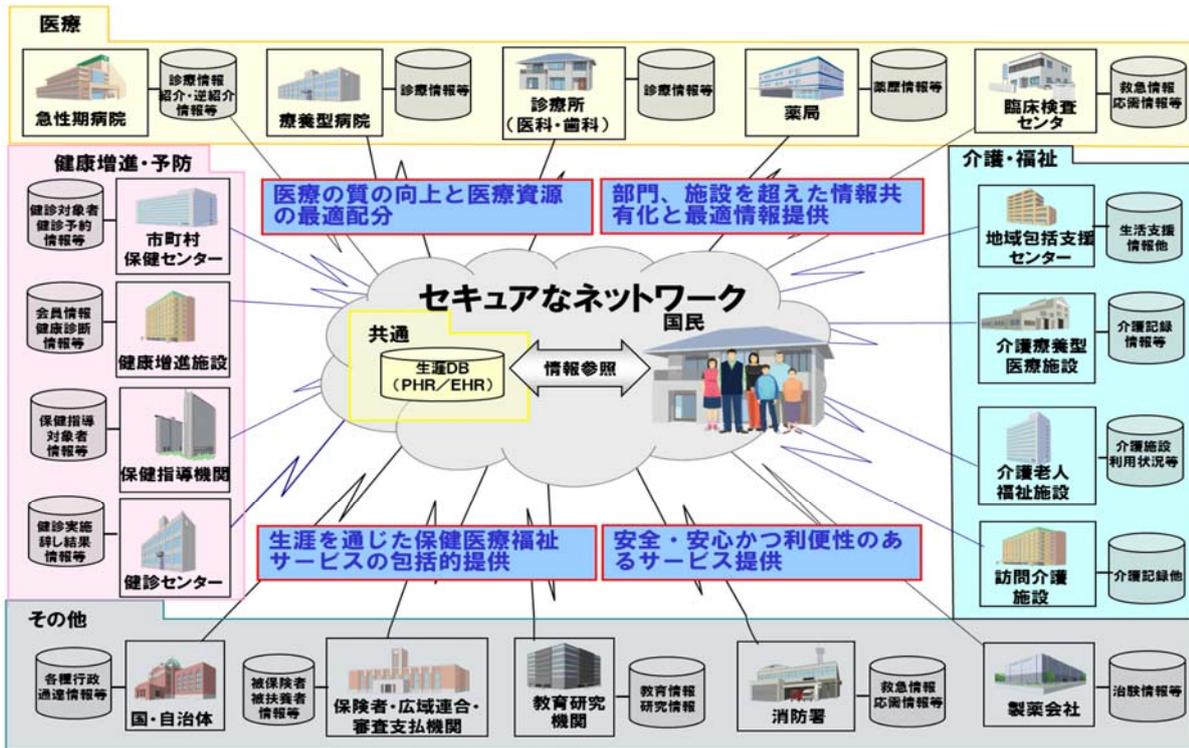
【2025ビジョンの目的】

1. 国民のために真に役立つ保健医療福祉情報システムの将来ビジョンを会員に提示すること
2. これによって、各委員会活動の目標設定や活動の方向性を示すこと
3. 保健医療福祉情報システムの将来ビジョンを、関係団体・機関に提示して、支援・協力の環境を整え、社会全般の情報化推進活動との整合を図ること

ヘルスケアITの発展を支える3階層（社会基盤層、製品層、サービス層）



JAHISの担う製品・サービス層（医療情報連携ネットワークのイメージ）



JAHISの担う製品・サービス層（医療・健康情報等の各種データの活用イメージ）

カテゴリ・施設／個人ライフサイクル		Life Cycle				
カテゴリ	対象施設例	誕生	幼少期	青年期	壮年期	老年期
健康増進 予防	健診センター 市町村保健センター 保健指導機関 健康増進施設	母子手帳 乳幼児健診 予防接種	学校健診 予防接種	企業/地域健診	各種施設利用	メタボ/後期 高齢者健診
医療	病院(急性・療養) 医科・歯科診療所 薬局 臨床検査センター 訪問看護施設			受診 各種検査 処方	救急 処置・手術 回復・療養	検査(病院) 診療/処方(診療所) 投薬(在宅) フォローアップ
介護 福祉	介護療養型施設 介護老人福祉施設 訪問介護施設 訪問リハビリ施設					介護認定 ケアプラン、介護レセ情報等 ADL、各種施設利用状況等
その他	国・自治体 保険者・広域連合・国保連 教育研究機関	レセプト情報、健診・保健指導情報、医薬品副作用情報、要介護認定情報等				
生涯健康・医療・介護・福祉情報		情報蓄積／利活用 生涯DB				

JAHISの担う製品・サービス層（製品・システムの対応例）

カテゴリ・施設		JAHIS各社の対応システム		
カテゴリ	対象主要施設	各種システム	連携	蓄積
健康増進 予防	健診センター 市町村保健センター 保健指導機関 健康増進施設	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導システム ・健診システム ・人間ドックシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ・病病／病診 連携システム ・医療／介護 連携システム ・地域連携 システム ・お薬手帳 ・疾病管理手帳 	<ul style="list-style-type: none"> ・PHR ・NDB
医療	病院（急性・療養） 診療所（内科・歯科） 薬局 臨床検査センター	<ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテシステム ・オーダーリングシステム ・リハビリシステム ・検査システム ・遠隔画像診断システム ・医事会計システム ・病棟看護システム ・周産期システム ・調剤システム 		
介護 福祉	介護関連施設 在宅	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養支援システム ・介護記録電子保存システム ・介護請求システム ・在宅看護システム ・在宅見守りシステム 		
その他	国・自治体 保険者・広域連合 審査支払機関 消防署（救急車等） 教育研究機関	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事務支援システム ・福祉情報システム ・障害者支援情報システム ・救急医療システム ・臨床研究支援システム 		

長年運用実績のある地域医療連携システムを運用している団体（4箇所）訪問し、状況や課題などをヒアリング

□ まめネット

訪問先：NPO法人しまね医療情報ネットワーク協会
 開始時期：2013年1月稼動（前身は2002年から稼動）
 参加機関数：771（病院：43、診療所274、介護事業所318、薬局69（ほか）
 参加者数：33,071人（2016/10現在）

□ あじさいネット

訪問先：NPO法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会
 開始時期：2004年7月稼動
 参加施設数：317（病院：32、薬局62（ほか）
 参加者数：61,634人（2017/1現在）

長年運用実績のある地域医療連携システムを運用している団体 (4箇所) 訪問し、状況や課題などをヒアリング

☐ 晴れやかネット

訪問先：一般社団法人医療ネットワーク岡山協議会

開始時期：2013年1月

参加機関数：490（情報開示施設（病院）：51、情報閲覧（病院）：114
診療所198、薬局122、介護施設5）

参加者数：15,934人（2017年4月現在）

☐ 天かけるネット

訪問先：NPO法人 天かけるネット

開始時期：2011年7月

参加施設数：129（病院：9、診療所：44、介護施設：8（ほか）

参加者数：20,104人（2017年2月）

状況や課題などのヒアリング結果を元に2025ビジョンの進捗状況や、 今後の取り組み（案）を整理

調査結果表(案) (2025ビジョンの進捗状況、および課題、対策について)

調査対象：保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）の加盟団体から、地域医療連携システムを運用している団体（4箇所）を訪問し、ヒアリングを行った。

団体名	概要	2025ビジョンの進捗状況	課題	今後の取り組み（案）
晴れやかネット	一般社団法人医療ネットワーク岡山協議会 開始時期：2013年1月 参加機関数：490（情報開示施設（病院）：51、情報閲覧（病院）：114 診療所198、薬局122、介護施設5） 参加者数：15,934人（2017年4月現在）
天かけるネット	NPO法人 天かけるネット 開始時期：2011年7月 参加施設数：129（病院：9、診療所：44、介護施設：8（ほか） 参加者数：20,104人（2017年2月）

2025ビジョンの進捗状況や今後の取組み（案）

□ 分類

「施設連携」「採用技術」「法制度等」「運用・体制」「人材」「運用資金」

□ 取りまとめ項目

- ・2025ビジョン : 2025ビジョン実現のための要件
- ・達成状況 : 要件毎の達成状況
- ・上手くいっている点 : 地域連携システム運用の上で進捗している点
- ・課題 : 2025ビジョン実現の上で課題となっている点
- ・対策案 : 課題に対する対応案を「JAHIS内対策」と「外部向け提言」として整理

状況や課題などのヒアリング結果を元に2025ビジョンの進捗状況や、今後の取組み（案）を整理

□ 記載例

	2025ビジョン	達成状況
採用技術	<ul style="list-style-type: none"> ①標準化のより一層の推進 ②一般の個人が容易に扱え、かつ十分なセキュリティを保つことが可能な利用技術の確立 ③リスクマネジメントの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ①SS-MIXをはじめ、厚生労働省標準規格を採用する努力がなされている。JAHIS標準については、一部の地域医療連携で採用されている。 ②各地域医療連携でモバイル端末を利用している。セキュリティに関しては、各地域医療連携で考慮されているが、その手法は様々である。 ③災害対策が考慮されているところは、ほぼない。

状況や課題などのヒアリング結果を元に2025ビジョンの進捗状況や、今後の取組み（案）を整理

□ 記載例

	上手くいっている点	課題
採用技術	<ul style="list-style-type: none"> ・厚労省標準規格であるSS-MIXを積極的に採用している。 ・技術仕様作成の際、JAHIS標準を参考とすることで、容易に作成が出来たケースがある。 ・手軽に利用できるモバイル端末（スマホ等）の利用促進がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SS-MIXのデータ格納方式が解釈により、様々ととらえられ、採用時に苦慮した。 ・JAHIS標準の認知度が低い。 ・モバイル端末のセキュリティに関して、実用的なガイドラインが必要である。

状況や課題などのヒアリング結果を元に2025ビジョンの進捗状況や、今後の取組み（案）を整理

□ 記載例

	対策（案）	
	JAHIS内	外部向け（提言等）
採用技術	<ul style="list-style-type: none"> ・JAHIS標準の精査・整理と認知度を高めるための普及活動の推進 ・モバイル端末のセキュリティガイドラインの策定 <p>【対応候補部会】 標準化部会、医療システム部会、保健福祉システム部会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SS-MIXのデータ格納方式を的確化 ・モバイル端末の実用的なセキュリティガイドラインの策定が必要

対応候補部会に検討いただき2025ビジョン実現に向けたアクションプラン（検討事項）とした

1. 「2025ビジョン」の普及推進

「2025ビジョン」の普及推進状況と課題を整理するため、長年運用実績のある地域医療連携システムの状況を調査

視察先：まめネット(島根)、あじさいネット(長崎)、晴れやかネット(岡山)、
天かけるネット(広島)

具体的取り組みや現状の課題を「2025ビジョンの進捗状況や今後の取組み(案)」として整理し2025ビジョン実現に向けたアクションプランとした。

2. 教育事業の対応

医療情報システム入門コース向けテキスト・用語集見直し、および講師対応を実施。

担当：「Ⅰ.医療をめぐる動向ガイダンス」

「Ⅱ.医療機関における医療情報システム」

単元Ⅰは、ホスピタルショウのセミナーに活用。

3. 「2030ビジョン」作成

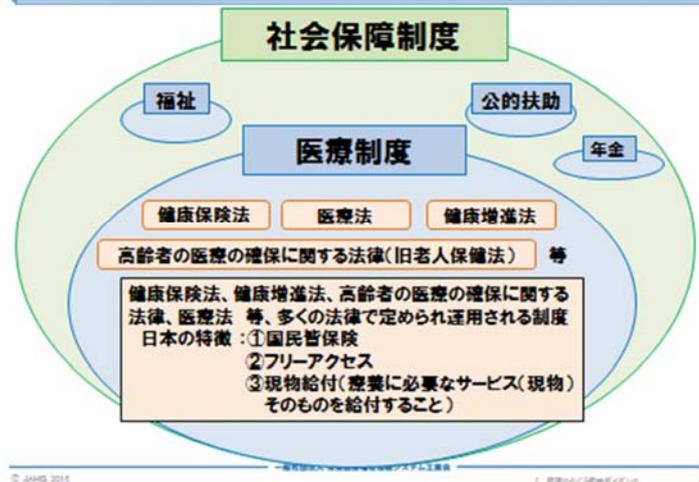
「2025ビジョン」を将来の社会課題や最新の政府戦略、ICTトレンドを踏まえた「2030ビジョン」への改版を検討中。2019年1月発行予定。

Ⅰ. 医療をめぐる動向ガイダンス

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会
企画委員会

1. 医療(IT)業界を取り巻く制度、政策、法令
2. 厚労省の医療等分野におけるICT化の推進
3. 厚労省の進めるデータヘルス改革
4. その他状況(政府戦略等)
5. JAHIS2025ビジョン

1. 医療(IT)業界を取り巻く制度、政策、法令



※教育コース(医療情報システム入門コース)テキスト
「Ⅰ.医療をめぐる動向ガイダンス」より抜粋

JAHIS 1. 医療(IT)業界を取り巻く制度、政策、法令

社会保障制度

- 福祉 (介護保険制度)
- 公的扶助 (年金)
- 医療制度 (健康保険法, 医療法, 健康増進法, 高齢者の医療の確保に関する法律(旧老人保健法)等)

政府戦略等

国としての産業振興等の観点から戦略が立案されている。
※医療は、主要分野として位置付けられている。

日本再興戦略

世界最先端IT国家創造宣言

安心、安全等

個人情報保護法
医薬品医療機器法

医療業界、医療IT業界に様々な影響を与える

① 介護報酬改定
② 社会保障制度改革
③ 医療制度改革
④ 診療報酬改定
⑤ 社会保障と税の一体改革
⑥ 医療法改正
⑦ マイナンバー制度

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

JAHIS 2. 厚労省の医療等分野におけるICT化の推進

POINT 1 医療連携や医学研究に利用可能な番号の導入

- ① 個人番号カードに健康保険証の機能を持たせる【2017年7月以降(※)でできるだけ早期】
→ 医療機関等の事務の効率化に資する。
- ② 医療連携や研究に利用可能な番号の導入【2018年度から段階的運用開始、2020年の本格運用を目指す】
→ 医療機関や研究機関での患者データの共有や追跡が効率的に実施でき、医療連携や研究が推進される。

① 個人番号カードに健康保険証機能を付与
② 医療連携や研究に利用可能な番号の導入

マイナンバー制度のインフラを活用

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

JAHIS 2. 厚労省の医療等分野におけるICT化の推進

POINT 2 医療機関のデータのデジタル化 + 地域の医療機関間のネットワーク化

- ① 医療情報連携ネットワークの全国への普及・展開【2018年度まで】
(全ての二次医療圏が地域の実情に応じて医療情報連携ネットワークを活用できる基盤を整備)
→ 医療機関や介護事業者等での効率的な情報共有が可能となる。
- ② 医療機関のデータのデジタル化として電子カルテを導入している一般病院(400床以上)の拡大【2011年度 57% → 2017年度 80% → 2020年度 90%】
→ 医療の質の向上、医療機関等の経営の効率化に資する。 ※高度急性期、急性期病院は100%を目指す

現状

地域の医療機関や介護事業者がICTを利用して患者情報を共有するネットワークが各地で構築されている。(2015年5月現在(※)の状況)

今後の取組

- ① 地域医療情報連携推進基金の活用
地域医療連携の実現に向けた、医療の連携促進・連携のための地域医療連携ネットワークの構築については、基金の活用が可能。
- ② 医療情報連携ネットワーク構築支援サービス(仮称)
地域の医療事情に応じた医療情報連携ネットワークを構築・運営するために必要な情報を厚労省から一元的に発信し、医療機関等をサポート。(2015年度～)
- ③ 電子処方箋手続の活用推進
患者自身が医療情報にアクセスし、どこでも見ることができ、薬局薬剤師から適切な服薬指導を受けられるよう、電子処方箋手続の活用促進の取組を行う。(2015年度)

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

JAHIS 3. 厚労省が進めるデータヘルス改革

保健医療分野におけるICT化の推進の全体像

患者へのサービスの質の向上
医療機関等の連携の推進 研究開発の推進 医療の効率化の推進

現在の取組
医療情報のデジタル化・標準化 医療情報の共有・連携のネットワーク化 インフラを基盤としたビッグデータ化

さらなる取組
保健医療分野のICT活用推進懇話会
○厚生労働大臣の下に「保健医療分野のICT活用推進懇話会」を設置(2015年11月)、同懇話会提議(2016年10月19日)を踏まえ、厚生労働省において提議内容の実現について検討。
○2017年1月、厚生労働省内に「データヘルス改革推進本部」を立ち上げ、具体化に向け、加速。

【厚生労働省が推進するデータヘルス改革の取組状況 平成30年2月28日資料】

JAHIS 4. 1 各組織別の戦略

(1) 政府: 日本経済再生本部 → 未来投資会議
日本再興戦略 → 未来投資戦略2017(2017年6月9日)
(2013~2016) ※-Society 5.0の実現に向けた改革-

未来投資戦略2018(2018年6月15日)
※-「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革-
＜次世代ヘルスケア・システムの構築＞
KPI①: 健康寿命を 2020年までに1歳延伸
2025年までに2歳以上延伸
KPI②: 「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」
◎2020年度終わりまでにやること。(基盤整備が中心)
・オンライン資格確認の本格運用
・全国保健医療情報ネットワークの本格稼働
・マイナポータルを通じて情報提供→PHRへ(特定健診等、健診データから)
・介護分野でのデータ連携
・健康・医療・介護のビッグデータ解析基盤の本格稼働
・「健康スコアリング」の事業主単位での実施

※労働社会(Society 4.0)、農林社会(Society 3.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)

JAHIS 3. 厚労省が進めるデータヘルス改革

健康寿命延伸に向けたデータヘルス改革

健康寿命延伸に向けたデータヘルス改革

健康寿命延伸の推進
医療情報のデジタル化・標準化 医療情報の共有・連携のネットワーク化 インフラを基盤としたビッグデータ化

【厚生労働省が推進するデータヘルス改革の取組状況 平成30年7月30日資料】

JAHIS 4. 1 各組織別の戦略

(2) 政府: 内閣官房 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部
世界最先端IT国家創造宣言
世界最先端デジタル国家創造宣言
(2013~2016)
→ 世界最先端IT国家創造宣言
・官民データ活用推進基本計画(2017年5月30日)
↓
世界最先端デジタル国家創造宣言
・官民データ活用推進基本計画(2018年6月15日)

＜重点分野＞
我が国が集中的に対応すべき、①経済再生・財政健全化、②地域の活性化、③国民生活の安全・安心の確保といった諸課題に対し、官民データ活用の推進等を図ることで、その解決が期待される8つの分野(電子行政、健康・医療・介護、観光・金融、農林水産、ものづくり、インフラ・防災・減災等及び移動)を重点分野として指定する。

※AI、IoTなどの技術や官民データの利活用
→エビデンスに基づく効果的な治療・介護、重症化予防、健康寿命の延伸、医療・介護サービスの生産性向上、健康管理のアドバイス、遠隔医療等

3. 「2030ビジョン」作成

将来の社会課題や最新の政府戦略、ICTトレンドを踏まえた「2030ビジョン」の作成中。

JAHIS 25周年記念イベントに合わせて発表予定
(2020年1月予定)。



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

今後も企画委員会の活動へのご支援・
ご協力をよろしくお願い申し上げます。
ご清聴ありがとうございました。

